



6月23日沖縄慰靈の日

ふいわ しけー てしち
～平和の詩～「平和ぬ世界どう大切」

6月23日、沖縄県で戦没者追悼式が開催されました。その中で小学校6年生の仲間理咲さんが「平和の詩」を朗読しました。

その詩は、「蝉の鳴き声は戦没者たちの魂のように悲しみを訴えている」「戦争で帰らぬ人となった人の魂が蝉にやどりついているのだろうか」「しかし私は思う 戦没者の悲しみを泣き叫ぶ蝉の声ではないと 平和を願い泣き続けている蝉の声だと」という内容で、最後に「平和ぬ世界どう大切（平和な世界が大切）」という言葉でしめくくられています。

5月に元海兵隊員から暴行を受け女性が殺害された事件に対して、米軍の沖縄からの撤退を求める大規模な集会が6月19日沖縄で開催され6万5000人の県民（主催者発表）が参加しました。しかし、当然のことですが日米安保を基軸とする考えである、自民党と公明党、おおさか維新の会は参加を見送り、超党派での開催にはなっていません。

この沖縄での集会に呼応する「沖縄県民大会と呼応するいのちと平和のための6.19行動」が国会前で開催され、約1万人が参加しました。この中で作家の落合恵子さんが「20歳の女性が殺されたその瞬間どんな屈辱の中にいたのか、みんなが考え、想像しよう。沖縄にこんな苦しみをずっと押し付けてきた政治家を落選させよう」と述べられていました。

創世「日本」（会長：安倍首相）という、「真・保守主義を根本理念」に掲げた政治団体が作られていますが、その東京研修会の中で参加者が述べている主張です。

- 内閣総理大臣補佐官 衛藤晟一参議院議員「本当に憲法を変えられる時が来た」
- 現外務副大臣 城内実衆議院議員：「日本にとって一番大事なのは何かというと、皇室であり、国体であると思っている」
- 元法務大臣 長勢甚遠氏：「国民主権、基本的人権、平和主義を無くさなければ本当の自主憲法にならない」

このような考え方の政治家に、現在政権が運営されているのです。このままでは人権もない暗黒の社会となってしまうことは確実です。

翁長沖縄県知事が述べているように、「真の意味で平和の礎を築くために、日米地位協定の抜本的見直しや米軍基地の整理縮小を直ちに求める」こと、そして「平和ぬ世界どう大切」を実現していくために、安倍政権の暴走に歯止めをかけようではありませんか。

翁長雄志（おなが・たけし）沖縄県知事の沖縄全戦没者追悼式平和宣言の要旨は次の通り。
沖縄に七十一年目の夏が巡ってきた。県民が体験した戦争の不条理と残酷さは忘れられるものでは条例はない。この悲惨な戦争体験こそが、平和を希求する沖縄の心の原点だ。私たちは復興と発展の道を歩んだ。しかし、戦後七十一年が経過した。それでも依然として広大な米軍基地が横たわり、事件・事故が繰り返された。非人間的凶悪な女性暴行殺害事件に、県民は大きいかかりを受けています。

沖縄知事平和宣言要旨

じている。 日米安全保障体制の負担は国民全体で負うべきだ。日米安全保障体制と日本の意味で平和の礎を築くた

め、日米両政府に対し、日米地位協定の抜本的見直しや米軍基地の削減を含む米軍基地の整理縮小を直ちに実現するよう求められる。米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設について、県民の理解は得られず、唯一の解決策とする考え

は許容できない。世界では、貧困や差別など人命と基本的人権を脅かす多くの課題がある。恒久平和を実現するため、世界の国々や私たち一人一人が一層協調し、取り組むことが重要だ。戦争の経験が息づく沖縄に暮らす私たちは、過去を継承し、平和の実現に向けて貢献する上で大きな役割を担っている。慰霊の日に当たり、全ての犠牲者に心から哀悼の誠をささげ、平和を希求してやまない沖縄の心を基礎に、恒久平和に取り組む決意を宣言する。

私たちの意思を明確に！期日前投票に行こう！